

## 第2回 瑞浪市市民まちづくり会議

### 会 議 録

日時：平成28年1月25日(月) 午後7時～午後9時10分

場所：市役所4階全員協議会室

#### 日程

1. 会長あいさつ

2. 審議事項

(1) 審議①

取組推進方針に基づく取組の個別検証

(2) 審議②

取組として疑問のあるもの、不足していると思われる取組についての  
検証(回答)

3. 協議事項

(1) 協議①

まちづくり全般に関する取組検証提案について

4. その他

閉会

#### 【配布資料】

- |  |         |
|--|---------|
| ・取組概要説明シート   | 資料No. 1 |
| ・取組評価シート   | 資料No. 2 |
| ・取り組み推進方針の中で「取組として疑問のあるもの」、「不足していると思われる取組について」いただいたご意見に対する回答 | 資料No. 3 |
| ・条例に基づくまちづくり全般についての取組検証提案                                    | 資料No. 4 |
| ・瑞浪市市民まちづくり会議委員名簿  | 資料No. 5 |

#### 出席者

出席委員

加藤 博之

伊藤 弘典

大野 正博  
中山 征治  
大森 建生  
渡邊 勝利  
橋本 孝晴  
渡邊 みゆき  
中條 貴子  
工藤 温子  
渡邊 京子

【名簿順 敬称略】

事務局 加藤 誠二（まちづくり推進部長）  
鈴木 創造（市民協働課長）  
横井 宏之（市民協働課まちづくり支援係長）  
隅田 一弘（市民協働課まちづくり支援係主査）

事務局 　　ただいまより、第2回瑞浪市市民まちづくり会議を開催します。  
私は、まちづくり推進部市民協働課長の鈴木と申します。どうぞよろ  
しくお願いいたします。まず、会議に先立ちまして委員の皆さまにご  
報告があります。この会議にご参加いただいております鈴木誠委  
員と伊藤光昭委員についてですが、それぞれお勤め先の職務事情等  
により、委員を継続していただくことが困難となりました。つきま  
しては、本日より大野正博様、橋本孝晴様のおふた方を新しい委員と  
してお迎えし、ご参加をいただくこととなりましたので、委員の皆  
様、よろしくお願いいたします。それでは、最初でございますので、  
大野正博委員、橋本孝晴委員から、自己紹介をいただきたいと思いま  
す。

【大野正博委員による自己紹介】

【橋本孝晴委員による自己紹介】

事務局 　　ありがとうございました。なお、本日の会議は委員総数11名中全  
員の出席があり、会議が成立していることをご報告いたします。それ  
では、会議の内容に移りますがこれ以降の進行を加藤会長にお任せ  
したいと思います。加藤会長、よろしくお願いいたします。

## 1. 会長あいさつ

加藤会長 本日は寒い中、また、お仕事等でお疲れのところご参集いただきまして、ありがとうございます。まずもって、大野様、橋本様におかれましては、会議の途中から参加をしていただくこととなりましたが、それぞれ深い見識をお持ちの方ということで、頼もしく思っております。今後ともよろしく願いいたします。この市民まちづくり会議は第2回目となります。昨年7月にまちづくり基本条例が施行されましたが、新しい条例でございますので、市民の皆さんに広く知れ渡るには、まだまだ時間がかかり、難しいことと思います。そういった中で、この会議において検討及び検証を進めるということについては、模索すべき点多いかと思います。そういった点につきまして、皆さんのお知恵を拝借してこの会議を進めて参りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

加藤会長 それでは、これより会議を進めて参ります。委員の皆様には、慎重なご審議をお願いいたします。この会議は、会議運営規程により公開の会議となっております。事務局、本日の会議傍聴希望者はありますか。

事務局 本日は、ありません。

加藤会長 本日の会議の傍聴者はないようですので、レジュメに従い進行します。

## 2. 審議事項

### (1) 審議①

取組推進方針に基づく取組の個別検証

加藤会長 まず、2. 審議事項について、(1) 審議① 取組推進方針に基づく取組の個別検証について、事務局より説明をお願いします。

事務局 それでは、始めに本日の会議資料の確認をお願いします。レジュメの下段にお示ししておりますが、資料の不足等がございましたら事務局までお申し出ください。

事務局 **【配布資料確認、前回会議内容の確認】**

事務局 それでは、本日の審議の手順をご説明いたします。はじめに、資料No. 1の事業概要説明シートにより、市民協働課が取組について説明をします。その後、質疑応答を行います。質疑応答が終了した後に、資料No. 2の取組評価シートにより評価をしていただきます。シートの記入方法は、後ほど説明を行います。このシートは会議終了後、提

出をお願いします。評価終了後、評価の発表をおふた方ほどからして  
いただきたいと思います。この一連の流れを1セット20分程度と  
して行います。本日は初回ということで少し時間がかかるかもしれ  
ませんが、3つの取組についてご審議をいただきたいと思いたすの  
で、この流れを3回繰り返し行います。審議をしていただく3つの取  
組については、先日のアンケート結果による上位の中から選定して  
います。それでは、資料1-①から始めます。

説明者 【資料No. 1-①に基づき説明】

加藤会長 ありがとうございます。ただいまの説明に対し、ご意見・ご質問  
はございませんか。

委員 資料に自治会加入率を平成32年度までに72%まで引き上げたい  
とありますが、現在の加入率はどれくらいでしょうか。

説明者 平成26年度でございますが、71.56%となっています。ここ  
数年ずっと自治会加入率が下がり続けています。担当課としまして  
は、現在の加入率を何とか保持していきたいという考えにおけるも  
のです。

委員 市の第6次総合計画では、70%台、確か72%だった記憶があり  
ます。総合計画は10年計画で、加入率は現在の数字の8掛けの数値  
だった覚えです。2割アップくらいの数値を目標として設定されて  
いたような覚えですが。現在は64~65%程度ではありませんか。

説明者 直近の平成27年度ですが、70.95%となっています。

委員 記憶違いであったかもしれません。もう一度確認してみます。

委員 そうすると、平成32年度自治会加入率目標72%について、目標  
数値としては低くないですか。

説明者 先ほど申し上げましたように、自治会加入率は低下しており、ずっ  
と右肩下がりの状態です。なんとか現状維持をしたいと考え、この目  
標数値を設定しています。総合計画の数値については確認して報告  
します。

委員 自治会加入率低下の理由は何か把握していますか。その把握がな  
ければ、数値をどうやって上げていくのかが出てこないと思います。

説明者 私どもでは、生活様式の多様化、家族、世帯の多様化があるのでは  
ないかと思っています。その他、自治会加入率の低いエリアとしまし  
ては、アパートや集合住宅の多いエリアの数値が低いことから、そう  
いったところも原因の一つではないかと考えています。

委員 それは、市役所側の主観的な意見ですよね。客観的な意見として、  
自治会加入されない方に対し、加入されない理由を聞いたわけでは

ないですよ。

説明者 自治会未加入者に対し、個別にお聞きしたわけではありません。  
委員 先ほどの目標設定数値72%という数値が高いのか低いのかは具体的な数値が出てこないと分かりませんが、例えば、自治会加入されない方に窓口でアンケートを書いてもらうなど、データとして、なぜ自治会に入らないのかというものが無ければ、対策を講ずることができないと思います。今後、新たな対策をお考えになるつもりはありますか。

説明者 転入者が主な対象になりますが、窓口で自治会加入のご案内をするような形をとっています。転入者のご意思にもよりますが、アンケートの協力をお願いするなど、こういった手法がよいか分かりませんが検討する余地はあると思います。転入者の方にご負担をかけないやり方もあると思いますので、検討して参りたいと考えます。

委員 自治会加入を勧めた時の転入者の反応はどのようなのですか。

説明者 現在、自治会未加入世帯で希望される方に防災ラジオの貸与を行っています。その際に、自治会加入について案内をしていますが、その反応としましては、「組費がかかる」、「冠婚葬祭等の付き合いが煩わしい」などの理由を述べられる方が多いです。

委員 本市の自治会加入率は70.95%ということでありましたが、他市の数値と比較してどうですか。

説明者 数値は持っておりますが、本日は持ち合わせておりません。次回報告させていただきます。

委員 世帯を分割する事例が多いという話を聞きます。1世帯が2世帯となり、分割した新しい方の世帯が未加入となる。そういったことが、自治会加入率が低下している大きな要因となっていないでしょうか。

説明者 様々な理由により世帯を分離されるご家庭もあるようです。委員ご発言のとおり、そういったことも要因の一つではなかろうかと思えます。先ほどの防災ラジオ貸与につきまして、世帯を分離されているご家庭にも貸与をしています。具体的には、分離した組加入をされていないほうの世帯の中で、貸与を希望された世帯になりますが、自治会未加入世帯と同じように貸与をしています。これまで、320件ほどの受付をした中で、50件ほどが世帯を分離されている方、その他が自治会未加入世帯の方となっています。基礎数字としてはかなりの割合になろうかと思えます。

説明者 先ほどの総合計画の件についてご報告させていただきます。現在72%程度のものを、最終年次となる35年度には80%まで高め

ようということで、目標数値が掲げられています。ただし、今回のまち・ひと・しごと総合戦略においては72%を目標とすることとなっています。

委員 わかりました。そうすると、72%という目標数値は現状維持レベルという認識でよろしいですか。もう少し目標を高く持つことはできないでしょうか。

説明者 総合戦略においては、72%で掲げています。現状においては難しいと考えています。

委員 目標が72%であるとすれば、現状維持ということになってしまいます。方向性が促進のためということで、よりよく加入者を増やすための内容であるとするのならば、現状維持の数値では意味がなくなってしまうと思います。数値を見直したらどうかと思いますがいかがでしょうか。

説明者 まち・ひと・しごと総合戦略においては、そのように数値設定をし、確定したものとなっております。本市では、これまで様々な取組をしてきましたが、正直なところ、自治会加入率を向上させることは難しいと思うところもございます。取組方針と促進というネーミングがそぐわないというご指摘かと思いますが、そうであれば、ネーミングを促進とするのではなく、自治会加入率の低下防止などにするのが適切なのかと思います。市では、これまでも検討を重ねてきましたが、これといった有効な対策がとれていません。これは、本市だけではなく、どこの自治体でも見受けられている問題です。ネーミングがふさわしくないというご指摘であれば変更を検討しますが、目標数値を更に高めるべきだということについては、目標数値が確定しているものですので難しいところもございます。

委員 加入促進で現状維持というのはいろいろなところで理解に苦しむところですが。これは審議事項ですよ。

委員 この72%というものについては、この市民まちづくり会議で目標を設定しようという意味のものではなく、まち・ひと・しごと総合戦略では72%に決まっているという意味の書き方のものです。これは、別のところで、すでに決まっている内容のものだと思います。

委員 別のところで決まっている数値ということでよいのでしょうか。

説明者 はい、そうです。

委員 もう一度確認ですが、総合計画では5年間の目標数値もあつたと思いますが、どのような数値でしたか。

説明者 平成30年度に78%、平成35年度に80%となっています。補

足ですが、自治会加入率の捉え方につきまして、第6次総合計画を策定した時点と、現時点における計算に用いる基礎数値の内容が異なっています。そういったところからも、現在72%を下回っている数値を総合計画策定時に掲げた80%という目標数値にしていくことは、大変高いハードルだと考えています。

委員

どうやって自治会加入率を高めていくのかはすごく難しいことです。連合自治会でも、他市と意見交換をおこなったり先進地の視察をして学んだりしていますが、大変難しい問題です。先ほどインセンティブについても話がありましたが、住民に自治会に入っていないければ何か損をしているなという気持ちになってもらわなければならないと思います。まちづくり行事も増えていますが、行事に参加するには自治会に加入していなければおかしいよというような雰囲気をつくっていくことも必要かなと思います。そういう意味で、区長会も協力して、まちづくりの活動をもっと活発化させるということも解決策の一つになるのではないかと思います。具体的には、今回の防災ラジオ貸与時のように、自治会加入者には自治会を通して貸与がされましたが、未加入者には自治会で手配をしませんでした。この様な何か分かるようなメリットや、自治会加入するきっかけが出てこればいいなと思います。

事務局

【資料 No. 2-①に基づき説明】

加藤会長

評価は5分ほどでお願いします。後ほど、おふた方ほどから発表をお願いします。

説明者

先ほどの、自治会加入率の計算について、補足説明をさせていただきます。平成26年度から住民基本台帳法の改正があり、外国人世帯も総数に含まれるようになりました。これにより、従前は総世帯数に含まれていなかった外国人世帯数を含めて計算することになり、実態として外国人の自治会加入者が少ないこともあり、平成26年度より自治会加入率が大幅に下落しました。もう一点、先ほどの自治会未加入者に対してアンケートを実施したらどうかというご意見についてですが、ただ今確認をしている最中ですが、市では毎年市民アンケートを実施しています。市の施策の住民満足度などをアンケートにより調査しているものです。そのアンケートの中で、まちづくりの活動をテーマにした項目もあった覚えです。後ほど改めて報告させていただきます。

説明者

先ほどの市民アンケートの件についてですが、平成26年度に実施したアンケート調査では、自治会加入状況のことを項目として取

り上げています。その中で、自治会に加入していない理由はなんですかという設問に対して、「加入するきっかけがないから」が31.7%、「面倒だから」が10%、以下「自治会活動の必要性を感じないから」・「ずっと住むつもりがないから」、「会費の負担ができない」の順に回答が続いていました。サンプル数は60件でした。きっかけがないからというのが一番多い理由でしたが、きっかけがあれば自治会加入をしていただける可能性があることを示唆しているのではないかと考えます。

**【委員による評価実施】**

加藤会長 それでは、お一人目の委員に評価の発表をお願いします。

**【委員より発表】**

委員 評価の中で、条文の中に「③住民は、原則として自治会に加入するものとします」、とありますが、これを受けて、加入していない人がいるのが現状です。これをどうしていくか。アンケート結果で、きっかけがないという人が多いということでした。きっかけを作ってあげなければいけない。大変難しいことですが、区長をはじめ、区で自治会未加入者を勧誘しに行くということなど、みんなできっかけを作ってあげることが大事だと思います。もう一つ考えられることは、加入することで、区長や会計など役が回ってくることを嫌がる、面倒だと思ってしまう方が多いのではないのでしょうか。役を務めることは、面倒なことではないよということを教えてあげる必要があるのではないのでしょうか。インセンティブの件については、何かメリットをあげるということになり、その何かを考えると、自治会とまちづくり推進組織との協働になると思います。現在、子どもたちを含めた活動が多数あります。親御さんに、子どもたちに地域のまちづくり行事に参加させてあげたいと思わせる、その行事の財源の一部は区費から賄われている、そういったことを理解してもらう必要もあると思います。

加藤会長 ありがとうございます。お二人目の委員に評価の発表をお願いします。

**【委員より発表】**

委員 情報共有、効率性、条文内容の項目について非該当とさせてもらいました。評価の対象ではない項目で、という意味です。自治会加入促進の取組について、自治会加入していない方の中で、きっかけがないという理由を挙げている方が3割いるなどのデータをお持ちだということでした。きっかけづくりの取組として、加入案内を配布しているということでしたが、正直なところ、紙を渡されても転入手続きの

忙しい中であり、スルーされてしまうことが多いと思います。例えば、個別に訪問をする、説明会を開催するなどがあってもいいのかなと思います。その他、外国人の方が多いということであれば、外国人向けの加入に向けた取組も検討していったらどうでしょうか。

加藤会長  ありがとうございました。それでは、次の評価に移ります。説明をお願いします。

説明者  【資料 No. 1－②に基づき説明】

加藤会長  ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に対し、ご意見・ご質問はございませんか。

委員  取り組んだ内容として、視察研修を実施したとありましたが、参加者の具体的な反応はどうでしたか。それに対する、その後の取組はどのようなのですか。

説明者  郡上市では、中学生のまちづくりへの提言が行われていました。こういう活動をしたらどうですかという中学生からの具体的な提案のプレゼンがあり、まちづくり組織や各種団体などが評価をするというものでした。実際に事業化されたものも発表されていましたが、掲示物による発表もありました。参加されたまちづくり推進組織の皆さんの反応としましては、これからの活動に若い人が必要だとされている中で、本市においてもチャレンジ研究室の若者たちが中心となり企画提案がされていくことを引き合いに、こういう方向でやっていくべきだという感想、評価をいただきました。具体的な取組については、研究員たちがチーム会議で検討を始めていますが、これからのことになります。

委員  チャレンジ研究室に入ってみえる方はどういう方ですか。

事務局  次の取組評価で挙がっていますので、後ほどもう少し詳しく説明いたしますが、研究員は、広報などで募集をしまして、20代前半から30代前半の方、計13名に参加をしていただいています。

委員  自治会、まちづくり推進組織、チャレンジ研究室の位置付け、関連性はどのようなのですか。

説明者  まちづくり推進組織は自治会と比べて若い組織です。大湫町、陶町の組織が古く、30年近くになります。地域の課題を解消していくのに、自治会は役員の任期が短く、長期的な地域の課題に取り組むことが難しいという実態がありました。そういった中で、特に周辺部においてはまちづくり活動が活発になり、まちづくり推進組織がはじまっています。課題としましては、若い方の参加が少ないということを確認されており、まちづくり基本条例策定の過程でも議論がされま

した。若い方に参加をしていただく、意見をまちづくりに反映させていく、そういう取組の一環として、チャレンジ研究室を立ち上げました。

加藤会長 ありがとうございます。それでは先ほどと同様に、評価をお願いします。

**【委員による評価実施】**

加藤会長 それでは、お一人目の委員に評価の発表をお願いします。

**【委員より発表】**

委員 取組としまして、区長会とまちづくり推進組織は両輪で動いています。市の指導もいただき、これはかなり強化されてきていると思います。市内には8地域ありますが、この連絡会のおかげで、自分の地域以外の情報を知る、お互いの情報交換ができる機会が増えていてありがたいです。地域の課題として大きなものは、後継者のことがあります。その他、まちづくり基本条例の中でもあります。今までは夢づくり地域交付金の中で活動をしていました。すでにNPO法人化をされている地域もありますが、そちらについてはますますの促進を、そうでない地域については、自主財源についての取組が研究され、進歩しているのではないかと思います。相対的に、市の取組については、こういう方向性での継続でよいと感じました。

加藤会長 ありがとうございます。お二人目の委員に評価の発表をお願いします。

**【委員より発表】**

委員 自分の住む地域のまちづくり行事には参加させていただいていますが、市民目線から、他地区の行事も市民が知って、参加して、活動の違いを感じられたらいいなと思いました。家庭の事情からまちづくりには一参加者として子どもと参加するだけになっており、組織の運営は役員さんにお任せになってしまっていますが、チャレンジ研究室がどんなことをしていくのか、まちづくり推進組織とどういう連携をしていくのか今後の結果が気になります。私の住む地域のまちづくり活動は大変素晴らしいです。他地域の友人も私のまちの行事に参加したいと言ってくれます。自分の住んでいる地域の行事はお知らせなどで分かりますが、他地域の行事にどんなものがあるのか分かりません。ですから、全市的なまちづくりの情報がほしいと思います。例えば、他地域で行われているまちづくり行事に子どもを連れて参加したいと思っても、情報がないため参加ができません。最近少しは目にとまるようになりましたが、それが可能になれば、もっ

と交流の輪が広がると思います。

委員 極論で言えば8地域の役員だけが情報交換や交流をしていて、一般参加している方、末端の市民の方にはなかなか情報が行き届かないというのが現状なのではないでしょうか。役員さんたちの情報交換は進んでいるようですが、そのあたりはいかがでしょうか。

委員 私の地域では、まちづくりに理事会という組織があります。他の地域からいただいたまちづくりの情報を自治会へ流して、自治会で認可を得ながら取り組める事業は取り組むようにしています。その中で、行事をただまねるだけではなく、意見交換をしながら、プラスアルファができるものにはプラスして事業化をしています。例えば、防災講演会をやるときには中学生に参加してもらったり、青少年育成をからめたり、小学校・中学校にも協力をいただいて事業を実施しています。他地域から防災活動の情報を得ながら、私の地域ではプラスアルファの部分として、地域の子どもたちを軸にして実施をしてみようという具合に取り組んでいます。最初のテーマに関連しますが、自治会未加入の方について、こちらに顔を向けてもらうということにつながってくると思います。

委員 地域によって多少の温度差はあるかもしれませんが、今後、ますます自治会、まちづくり推進組織、チャレンジ研究室の密な連携が必要になってくると思います。

委員 まちづくり推進組織の役員間の交流、情報共有はすごくできていると思いますが、まだまだ市民レベルには伝わっていないと思います。だからこそ、住んでいる地域の情報だけでなく、他地域の行事情報なども欲しいです。情報を得ることで、自分の地域の子どもたちにも他地域の伝統行事などを見せてやりたいと思います。まちづくり推進組織は日が浅いですが、それぞれが自分の地域の活動をすごく大事にしてみえ、それぞれの地域の良さが出てきていると思います。親の立場からですが、子どもの頃から他地域の伝統行事を知る機会などがあるとよいなと思います。子どもたちにも、まちづくりは瑞浪市のよい財産だと思ってもらいたいです。

加藤会長 貴重なご意見をありがとうございました。それでは、次の評価に移ります。説明をお願いします。

説明者 【資料 No. 1－③に基づき説明】

加藤会長 ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に対し、ご意見・ご質問はございませんか。

委員 現状では、どれくらいの頻度で会議を開催してみえますか。

- 説明者 研究者には、学生から社会人までがみえ、それぞれが忙しい時間の中で日程調整をして、自主的に集まっています。現在のところ、月1回程度のチーム会議開催となっています。
- 加藤会長 ありがとうございました。それでは評価をお願いします。  
【委員による評価実施】
- 加藤会長 それでは、お一人目の委員に評価の発表をお願いします。  
【委員より発表】
- 委員 現在、他にも公職をいただいております市内で実施される催しなどに出席する機会が多いのですが、参加している人を見ると、どこも中年や高齢者ばかり。若者の参加がまったくないように感じています。そういう視点から捉えると、まちづくりに若者を積極的に参加させていこうという方向性、着眼が非常に良いと思います。まだ活動が始まったばかりで、結果が問われることもないと思いますが、チャレンジ研究室が所期の目的を達成されることを大きく期待しています。研究者さんには頑張っていただきたいです。
- 加藤会長 ありがとうございました。お二人目の委員に評価の発表をお願いします。  
【委員より発表】
- 委員 先日、郡上市で行われたまちづくりフェスティバルの視察をしてきました。チャレンジ研究室で何をどう進めていけばよいか分からないところもありましたが、研究室がこれから企画提案をしていくうえで、大変参考になりました。先日、同年代の周囲の友人にまちづくりについて意見を聞いてみました。まず、広報を見ているかと尋ねると、広報を見ていないという子がとても多かったです。どの子も親に言われて見ることもあるかなという程度であり、自分から進んで見ている人はいませんでした。今回のチャレンジ研究室のことも知らない人が多いと思います。研究室の活動について、私の感想なのですが、実際にやってみると年齢も関係なく参加ができます。自分の意見も発信ができて、周りの意見も聴けるととてもよい場だと思います。ただし、参加するという段階になると学生にとっては敷居が高く感じられます。原因としては、大学生は他県に通学している人が多く、会議に参加する時間を取ることが難しいです。友人に意見を聞いてみましたが、大学生活や通学に時間を要していたりする中で、瑞浪に滞在する時間が短く、正直なところ興味がないということでした。この研究室の内容はすごく良いことをしていると思うし、個人的にはすごく良い経験になっています。もっと情報を発信していくべきだ

と思いますが、その手法について、ホームページをもう少し活用したり、フェイスブックを活用したりしてみてもどうでしょうか。チャレンジ研究室の会議に出ることだけが参加ではなくて、意見を聴くだけでも参加しているというふうに捉えるなど、敷居を低くしてみたらどうかと思います。

加藤会長 ありがとうございます。情報発信の方法について若者はいろいろなツールを使用しています。従来の行政の手法ばかりではなく、新しい手法も取り入れていくことが必要かと思います。このチャレンジ研究室の設置については、新しくスタートした取組ということで、皆さんこれから期待するという評価が多かったのではないかと思います。

## (2) 審議②

取組として疑問のあるもの、不足していると思われる取組

加藤会長 それでは、(2) 審議② 取組として疑問のあるもの、不足していると思われる取組の検証について、事務局より説明をお願いします。

事務局 【資料 No. 3 に基づき説明】

加藤会長 ありがとうございます。事前アンケートにより我々委員から出された取組に対する疑問点などについて、事務局から説明をいただきました。ただいまの説明に対し、ご質問があればお願いします。

委員 「なし」

加藤会長 特にないようですので、次の協議事項に移ります。

## 3. 協議事項

### (1) 協議①

まちづくり全般に関する取組検証提案について

加藤会長 それでは、3. 協議事項について、(1) 協議① まちづくり全般に関する取組検証提案について、事務局より説明をお願いします。

事務局 前回会議で、市から示された取組ばかりを検証する場ではもったいなく、各委員から検証するテーマを募り、そのテーマに沿った検証を行っていったらどうかという内容のご意見をいただきました。そのため、本日のこの時間は、意見交換により委員提案の検証テーマを決めていただく時間とし、「自由枠」の意味合いで、この協議事項の枠を設けました。ご意見に沿い、アンケートを実施した結果、検証してみたいテーマということで9つのテーマを挙げていただきました。どこから手をつけていけばよいかわからないという率直な内容のご

意見もお寄せいただいております。そこで、事務局から方向性として案をお示しさせていただきます。資料No. 4をご覧ください。このような進め方をしたらどうかと考えます。まず、本日は、意見交換によりテーマを決めていただきます。次に、次回会議までに、テーマに沿った内容で、こういう取組をしたらこういう効果が期待できる、協働の役割はそれぞれどうしたらよいかなど、『まちづくりに関する取組をプロデュースする』という目線で考えていただき、次回会議で意見交換をしていただきます。最終的にテーマに沿った具体的な取組などがまとまれば、市に提言・提案をしていただくという形にまとまればベストなのではないかと考えます。この協議事項においては、委員の皆様にも、結論や必ず何らかの成果を出していただかなければならないというものではありませんので申し添えます。

加藤会長      ありがとうございます。ただいま事務局から協議事項について提案をしていただきました。前回会議で意見が出されたように、私たち委員が自分たちで提案していくというところで、「自由枠」としていろいろなやり方があるとは思いますが、事務局案で試しに一度やってみて、皆さんからご意見をいただく中で不具合があったり、他により検証の仕方が出れば見直しをするなどして、この会議を成熟したものにしていけばよいのではないかと思います。先ほどの事務局からの提案に対し、ご質問やご意見があればお願いします。

委員           「なし」

加藤会長      それでは、特に意見がないようですので、事務局提案のような形で協議を進めていきます。テーマの決定についてですが、事務局の腹案はありますか。

事務局       アンケートの結果、委員の皆様からご提案をいただいたテーマは9つありましたので、この中からテーマを決めていきたいと考えます。9つすべてを取りあげて検証することは、限られた会議時間内では困難だと考えます。また、他の委員さんの提案を見られて、それ以外にも新しい提案意見が出てくるかもしれません。今回は9つの中から、市でも特に力を入れている「子ども及び若者について」、「自治会加入について」、「人口減少に伴うまちづくりへの参加について」、以上3つの中からテーマを選び、検証をしていただきたいと思います。残ったその他のテーマについては、次回以降に取り上げて検証するのか、改めて追加提案をしていただき、再度検証するテーマを选考していくのかなど、今後の会議の進め方を含めまして、委員皆様のご意見をいただき検討して参りたいと考えています。本日は、テーマを

選定していただき、次回の会議までにテーマに沿った取組内容、市民や行政の役割などを各自お考えいただき、次回会議で意見交換等を行っていただきたいと思います。

加藤会長 それでは、テーマの選定を行いたいと思います。9つのテーマを皆様から提案していただきましたが、その中の3つの中からという事務局の腹案でした。自治会加入促進については、本日の審議において意見交換や評価も活発にできましたので、それを除いた2つの中からテーマを決めていきたいと思います。ご意見をお願いします。

委員 どちらも大事なことだと思います。2つのテーマで考えたらどうでしょうか。「子ども及び若者について」、「人口減少に伴うまちづくりへの参加について」は内容がすごく密接していると思います。子ども及び若者がどうやってまちづくりに参加していくかを検証してはどうでしょうか。

委員 個別にそれぞれ検証するのか、2つを一緒に検証するのか。

事務局 複数のテーマを持つと裾野が広がるため、意見が多岐に渡り、十分な検証をすることが難しくなるのではないかと考えておりました。両テーマは密接な関係があるというご意見がありましたので、2つ合わせて考えていただきたいと思います。「まちづくりへの参加」という大きい枠の中に、「子ども及び若者がどうやって参加するか」も考えるというようなことで検証していただければと思います。事務局において、資料No. 4の様式を再考しまして、次回会議までに委員各位に事前郵送します。委員の皆様におかれましては、その様式に基づいて各自のお考えをまとめていただきたいと思います。

加藤会長 今回は、「子ども及び若者について」と「人口減少に伴うまちづくりへの参加について」を1つのテーマとして捉え、期待する効果、取組におけるそれぞれの役割などを考えていきたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。

委員 「異議なし」

加藤会長 それでは、次回の会議において意見交換を行いたいと思います。今後、このテーマに沿って具体的に新たな取組などの案がこの会議でまとめられれば、それを市に提案するなどしていきたいと思います。

#### 4. その他

加藤会長 4. その他について、事務局より説明をお願いします。

事務局 事務連絡ですが、次回会議の日程につきまして、3月3日（木）に開催させていただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員 「異議なし」

事務局 それでは、次回、第3回の会議は3月3日（木）ということで、ご予約をお願いします。

加藤会長 本日は長時間にわたり慎重な審議をいただき、ありがとうございました。次回は3月3日（木）に開催される予定ということです。改めて事務局から文書で案内が出ますので、よろしくお願ひいたします。ここで、本日からご参加いただきました委員に会議の感想などを伺いたいと思います。それでは、よろしくお願ひします。

委員 審議の中でも話がありましたが、評価シートの選択肢の立て方については、今後検討が必要かもしれないと思いました。本日の評価につきまして、自治会加入率の目標数値が72%というところですが、今後、自治会加入率は全国的に減少することが予想されています。その中で、目標設定としては現実的な数値だと思います。この減少していく流れの中で横ばいということは、実質増という考え方ができると思います。ただし、ここから数値を伸ばしていくとするのであれば、なんとなくという感覚的な話ではなく、きちんとしたエビデンスに基づいて議論していく必要があると思います。アンケートによる自治会未加入者の項目で、入るきっかけがないと回答をしている3割の方たちについて、きっかけを与えたからどんどん加入していただけるかというところではないと思います。この問題については、慎重に、詳細に検討をしていく必要があると思います。今後、魅力あるまちづくりを進めていくうえで、市や自治会が何を目指していくのかをもう少し正確に表す必要があるのではないのでしょうか。次回テーマにも関係しますが、これから人口が減少した場合、減少した中でやっていくのか、それとも増やしていくのか、方向性を打ち出していく必要があると思います。たとえば、たくさん観光客を増やす方式でまちづくりを進めていくのか、定住者を増やす方式でまちづくりを進めていくのか、若い人たちが考えるような情報発信も重要になってくると思います。そのためには、市全体や自治会が現状抱えている問題と、何が売りになるかを明確に議論する必要があります。何が問題か分かれば、その問題を解消していく。売りになるとすれば何が売りになるかを明確に出していくことが重要です。ある自治体・自治会の例ですが、何もないのが財産だということを売りにして取り組んでいるところ、昔ながらの何かが残っていることを売りにして取り組んでいるところ、ある一部のオタクの方だけが求めているものを売りにして取り組んでいるところなどがあります。そういったこと

をSNSで情報発信していけば、必ず人が集まります。その結果、まちが盛り上がり、住みたいという人が出てきます。若者について、今回のテーマにもなっていますが、現在、教育をいかに活かすかということに積極的に取り組んでいます。18歳投票権の引き下げもあり、主権者教育を始めています。小学校・中学校・高校から、今後も瑞浪市に住み続けたいという内容の政策提案をしていただくこともよい手法だと考えます。中学校・高校の授業では、社会科で地方自治の項目がありますので、その中で議論をするのも重要ではないでしょうか。次に、取り組みでチャレンジ研究室がありましたが、大変よい取り組みだと思います。これをいかに継続させていくか、一過性で終わらせないことが大事だと思います。このような企画は段々潰れていってしまうことが多いです。若い人の集まりは誰かがサポートしていく必要があります。学校の先生方や若い政治家なども巻き込み、核になる人を作り上げていくことも今後の課題となってくると思います。

加藤会長 貴重なアドバイスをありがとうございました。最後に、伊藤副会長のあいさつで閉会にしたいと思います。

伊藤副会長 皆さん、長時間に渡りお疲れ様でした。次回につながる話が多く出ましたが、この点を含めて次回の協議に深みが出るとよいと思います。

以上を持ちまして、第2回目の瑞浪市市民まちづくり会議を終了したいと思います。お疲れ様でした。

終了。